

令和2年度 第1回児童福祉専門分科会における主な意見一覧

No.	区分	委員によるご意見
1	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果（速報版）について	<p>（仲委員） 有効回収率が伸びたというのはいいことだと思う。調査時期もコロナの影響で自宅におられる方が多く、回答された方が多いという気もするが、この伸びた理由について分析はないか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 今回の調査は調査票の配付と回収を郵送にしており、前回から変更したことが影響したのではと考えております。また、委員のご意見のとおり、アンケートを発送したのが、緊急事態宣言が出て自粛期間中ということも回収率が伸びた一因かと考えております。</p>
2	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果（速報版）について	<p>（荒委員） 資料1の29ページ「ご自身の自立や生活の安定を図るために望む支援策」について、選択肢に「気軽に相談できる場所や相談体制の充実」があるが、行政として、こういうことに困ったらこういうところへ相談してくださいという案内等についての体制はどういうふうになっているのか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 離婚届を出される際には「ひとり親のみなさんへのてびき」という形で、支援制度や相談窓口をまとめた冊子を配付しています。また、毎年8月の第4日曜日に休日相談窓口という形で、お休みのときにも相談をしていただけるように窓口を設けております。</p>
3	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果（速報版）について	<p>（富岡副会長） 単純集計では正社員の割合や年収が増えている等、いい傾向に向かう見方ができるが、その要因についてどう分析していくのか。5年前の調査と比べると、回答者の年齢も上がっている。年齢に伴い、正社員が増え、年収もそれに伴って増えたのか。あるいは支援制度が充実してきたためという見方もあるだろうし、その辺りについて、今後分析を進めてもらいたい。</p>
4	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果（速報版）について	<p>（玉野委員） コロナの関係で、せっかく取り決めたのに面会交流がストップしてしまったというような相談もあって、コロナの影響次第で、アンケートの結果も変わってくるのではないかと思う。また、養育費については取り決めをしていないというのが案外多いのが気になる。</p>
5	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果（速報版）について	<p>（玉野委員） 結婚されずに出産した若年女性といった、未婚のひとり親と呼ばれる方たちが、最初に支援窓口とつながりが持てるのは、どういったところがあるのか。離婚届を提出するような機会がないので、そういった子たちをどの辺りで把握できるのか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 若年出産については保健センターにおいてフォローされており、中でも特に経済的であったり、養育に心配されるお子さんのことについては子どもの育ち見守りセンターに連絡があったり、また、助産制度を案内するなかで相談につなげるということもあります。</p>

No.	区分	委員によるご意見
6	○ひとり親家庭を取り巻く状況について	(枝村委員) 参考資料1の3ページ、「児童扶養手当の受給者数の推移」に記載のある「児童手当の受給者が減少している」という記述は、「児童扶養手当」の誤りではないか。 【ご意見に対する回答】(事務局) ご指摘のとおりであり、修正します。
7	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果(速報版)について	(岡本委員) 養育費の取り決めというのは、なかなか前に進んでいないのが現状だと思う。取り決めはされても途中で切られてしまう、そして面会交流だけではぜひともしたい要望があるという悩みが結構多い。養育費に関しての取り決めというのも、もう少し市のほうで拡充していただいて、少しでもいいから母子家庭のお母様方に配付できるような状況になればいいと思う。別れた相手と顔を合わせるのも絶対に嫌という希望もあるので、そのところを何とかしてこの養育費問題について、枚方市として、もう少し力を入れていただければというふうにお願いしたい。
8	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果(速報版)について	(玉野委員) 養育費については、調停調書があればそれを基に強制執行できるというところもあるので、任意で取り決めされたものを公正証書にするという仕組みができればと思う。または、養育費は義務だから、税金みたいな形で、払ってなかったら強制的に取れる仕組みにしてしまったほうが、任意でやりとりをするよりもいいのではと考える。
9	○ひとり親家庭等に関するアンケート調査結果(速報版)について	(肥田委員) 面会交流に関しては、例えば、日常はお父さんがいなくても、子どもが父親のイメージを持つことができ、子ども同士でお父さんの会話をするときにも参加できるというふうに、子どもの気持ちの穴を埋められる部分があるのではと思う。
10	○第4次計画の基本的な考え方について	(枝村委員) 資料3の6ページ「ひとり親家庭等を支える環境の充実」に関連して、困難な状況にあるひとり親家庭の中に、親自身が発達障害とか、軽度の自閉症を持っておられるとか、子どもさんが色々な障害を持っておられるとか、困難を抱えるひとり親家庭からの相談が多い。障害福祉担当との連携など、一時的な病気とかではなく、障害を抱えながら生活しているひとり親世帯に対しての、障害という観点からの支援も必要だと考える。 【ご意見に対する回答】(事務局) 障害福祉担当との連携については、しっかりとつながっていかないといけないというところではありますが、縦割りでそれぞれの部署が行うのではなく、横の連携をとってうまく支援ができる体制をつくっていくということが大きな課題にはなってくると思います。
11	○第4次計画の基本的な考え方について	(遠藤委員) 資料2の3ページ。「ひとり親家庭等日常生活支援事業」について、父子家庭への派遣日数がすごく多いということからして、シッターさんを派遣してもらったときの費用助成のニーズは高いと思う。その辺りの助成を厚くできないものかと考える。

No.	区分	委員によるご意見
12	○第4次計画の基本的な考え方について	(大西会長) 資格取得とか就労支援となると、母子の方に視点が行きがちになってしまうが、それらは父子であっても同様に対象とされており、ニーズもある。計画においてもひとり親という1つの観点で整理し、母子父子それぞれの表現が成り立つように、文言の使い方も含めて検討いただきたい。
13	○第4次計画の基本的な考え方について	(富岡副会長) 計画に基づいて色々な取り組みを行ってきて、進捗管理等も十分されている中で、もう少し出していただきたいと思うのは、例えば機構改革を行ったことで、その中で今まで行ったものがどの程度になりましたとか、こういうところが改善されたとか、さらに高めていきますというようなことが見えてくると分かりやすくなる。
14	○第4次計画の基本的な考え方について	(富岡副会長) 横断的などというのはとても重要だと思いますし、またこの難しさということも当然あると思う。例えば、自然素材を使った教育をしたいということであれば、公園担当課が日々公園を整備して回る中で、いろいろな素材が出てくる。そのトラックが各園を回れば素材は集まる。そういうことができる横断的なシステムがあれば、そこで色々なおもしろいことができる、あるいは試行錯誤していく中、すごく魅力的なまちづくり、都市経営の一部が見えてくるのではと思う。
15	○第4次計画の基本的な考え方について	(大西会長) 現計画では相談機能の充実について盛り込んだが、今回のアンケート調査の中で、その辺の周知度が非常に低い結果であった。今後もやはりまず相談から入って、生活支援につなげるという、その入り口の部分は大事だと思う。それをいかに市民の方々に知らせるか、前に作成されたリーフレット等を各委員に提供してもらえれば、それを広め活用するための意見も出たかと思うので、再度各委員に配付してもらいたい。
16	○第4次計画の基本的な考え方について	(枝村委員) 相談のあり方として、若い世代についてはSNSといった記載がある。ホームページから受け付けられるメール相談の窓口も必要ではと思うが、こういうシステムというのは、既にあるんでしょうか。 【ご意見に対する回答】(事務局) ホームページの問い合わせフォームでご質問や相談等がありましたら、メールや電話で返させていただくという形で対応しております。
17	○第4次計画の基本的な考え方について	(大西会長) 情報発信としては色々なメディアも使いながらということだが、一番大事なものはフェイス・トゥー・フェイスの関係だと思う。ひとり親家庭の問題というのは、やっぱり個別の問題ですし、人と人が触れ合い、関わって、そして広がっていくという要素もあるので、デジタル的な広がりもありつつ、アナログ的なやり方も大事にしながら相談体制をつくっていただきたい。